■フォトエッセイ■

五輪準備に追われるリオデジャネイロ

写真・文　近田亮平
Ryohei Konta

写真１　五輪のメイン会場となるバハ地区の競技施設。多くの施設が完成間近だったが、周辺の設備は工事中であり、テスト競技会で停電が発生するなどの問題も報じられた。

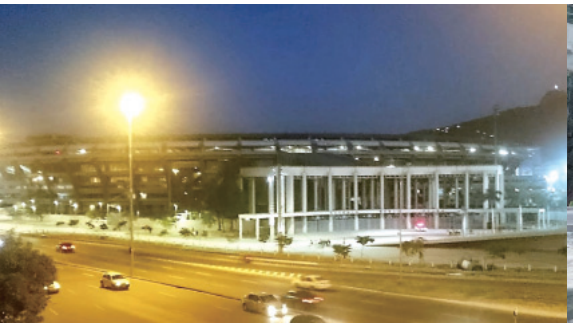

写真４　リオ市中心部にあるマラカナン競技場。夕暮れ時のため右側奥には照明されたキリスト像が見える。同競技場は五輪の開会式と閉会式が行われる

写真３　アクセスの良くないバハ地区へ新たな道路を敷設すべく行われていたトンネル工事。バハ地区はリオの国際空港や市中心街から約 30km 離れており、かなり遠隔地にある

写真２　メイン会場五輪関連ビルの横に残っていた住宅と思われる建物。壁にはブラジルで明るみに出た一大汚職事件捜査の名称（Lava Jato）をもじり「五輪汚職作戦」と書かれていた

ブラジルのリオデジャネイロ（以下、リオ）において、二〇一六年八月五日から南米初となる夏季五輪とパラリンピック（以下、「五輪」）が開催される。筆者は二〇一五年一一月、および、二〇一六年四月後半から五月初め、ブラジルでの現地調査のためリオを訪問した。本フォトエッセイは、その際に撮影した写真とともに、五輪開催を控えたリオの五輪会場や街角の様子を伝えるものである（乗り物などについては本号所収の特集浜口論稿参照）。

写真５　コパカバーナ会場にある高級住宅地区イパネマのビーチでビーチバレーを楽しむ人々。ブラジルはビーチ・スポーツが盛んであるが、遠くの断崖にはファヴェーラが形成されており、依然として深刻な貧富の格差を象徴している

写真８　予定の６月までに完成させるべく工事が行われていた専用レーンバスBRTのトランスオリンピカ線デオドロ駅。メイン会場のバハ地区まで敷設され、当初予定では延長26kmだが若干の距離縮小になる見通し

写真６　サブ会場となるデオドロ地区で試合が行われるホッケー場。コートはほぼ出来上がっていたが、観客席や周辺の施設はまだ工事中であった

写真７　デオドロ地区は軍の施設や関係者の居住区があり、施設内では柔道の練習が行われていた。壁には「ブラジルは金（メダル）に値する」と書かれている

リオ五輪の会場は主に四つに分かれている。メイン会場となるのはリオ市南部の郊外に位置し、選手村も併設されるバハ地区である。同地区では、体操、水泳、柔道など複数の施設が集中し、五輪で二三競技、パラリンピックで一三競技が行われる。筆者はリオ到着後、五輪のメイン会場となるバハ地区を最初に訪問した。五輪施設の多くは完成間近な印象を受けたが、交通をはじめとする周辺施設のインフラ整備の遅れを感じた。バハ地区に向かう途中にはリオ特有の山々が海まで迫っている場所があるため、交通のアクセスは良くない。そのため、新たな幹線道路の敷設工事が行われていたが、その近くにあるサイクリング道路の一部崩壊、バハ地区の入口まで延長予定である地下鉄の工事の遅れや資金不足など、五輪開催前および期間中の施設の実用可能性や安全性に対して懸念が高まっていた。

筆者は訪問したバハ地区から、三〇キロ以上離れた国際空港まで二車両連結のバスが専用道路を走行するBRTのトランスカリオカ線に搭乗した。そしてリオ市北部の駅で地下鉄に乗り換え、リオ市周辺部を一巡し約二時間を要するルートで帰途についた。その途中、サッカーで有名な競技場のあるリオ中心部のマラカナン地区に立ち寄った。同地区では開会式や閉会式が行われ、サッカーやバレーボールなど五輪で五競技、パラリンピックで二競技が実施される。また、世界的な観光ビーチであるコパカバーナを中心とした地区も五輪会場のひとつとなっている。コパカバーナ地区ではビーチバレーやトライアスロン、近隣の湖でのボート、市中心部も疾走するマラソンなど五輪で七競技、パラリンピックで五競技が行われる。

四つ目の五輪会場はデオドロ地区で、リオ市北西部の郊外に位置し、軍隊の既存の関連施設を活用し整備が行われていた。デオドロ地区では、五輪で一一競技、パラリンピックで四競技が実施される。筆者が訪問した時、最寄りの駅や街角に五輪のポスターなどは一切なく、五輪が三カ月あまりに迫っているという雰囲気は感じられなかったが、駅や関連施設の多くで五輪に向けて工事が行われていた。なお、同地区は軍関連の施設や住宅が集中しているため、比較的治安が悪いとされるリオ市北部の方に位置するが、筆者が歩いてみた限りでは安全な印象を受けた。

デオドロ地区にはスーパービアと呼ばれる鉄

写真９　中国から購入した郊外鉄道スーパービアの真新しい車両の内部。この日は平日だったため車内の物売りの数は少なく、テレビでリオ州政府の宣伝番組が延々と放送されていた

写真 13　2015 年 11 月に訪問した際の中心街の目抜き通りリオ・ブランコ大通り。週末であったが、ライト・レイル鉄道 VLT の敷設工事が進められていた

写真 10　スーパービアの車窓から見えたリオのファヴェーラとスーパービアの旧車両。同電車の一路線はサブ会場のデオドロ地区まで走行しているが、中低所得層が多く居住する北部地区を通るため、リオ市民の現実が目に飛び込んでくる

写真 12　再開発が進む港湾地区にあり、完成すると南米で最大となる水族館。ただし 2016 年 1 月、工事中の水族館に強盗が押し入り、パソコンや工事用具が盗まれる事件が発生した（同写真は 2015 年 11 月訪問時）

道でアクセスできる。スーパービア鉄道では、映画『セントラル・ステーション』の舞台ともなったセントラル・ド・ブラジル駅から郊外または隣接する別の市まで五本の路線が運行されている。筆者が週末に乗った際、ブラジルでたまにみかけるミネラルウォーターや缶ビール、スナック菓子の売り子だけでなく、雑誌、ＤＶＤ、自家製ケーキ、電車のなかなのに火入れしたブリキ缶でピーナッツ菓子を温めて売る人たちが、ひっきりなしに車内を往来していた。なかには大きな声を出すのが疲れたのか、録音した売りセリフを携帯スピーカーで流しながら売り歩く人もいた。また、乗客と思われたひとりの男性が突然、持っていた太鼓を叩き出すと、通りかかった売り子の男性が太鼓のリズムに合わせてラップやサンバを歌い出し、車内は「何でもあり」なちょっとしたスーパーかテーマパークのような状態となった。その時筆者は、まるでリオ庶民の世界を描いた映画のなかに入り込んだかのような感覚に陥った。

リオでは五輪開催に際して、インフラの老朽化や治安の悪化が顕著な港湾地区の再開発が進められている。同地区に位置するマウアー広場には、環境問題などをテーマにした「明日の博物館」や美術館が既にオープンしており、その近くには完成すると南米最大となる水族館が建設中であった。また、ＶＬＴと呼ばれる近代的

写真 11　リオでは五輪を契機に都市再開発が行われており、その目玉の一つである港湾地区。
手前のオブジェは「オリンピック・シティ」と造形され、後方に見えるのは「明日の博物館」（本誌裏表紙の写真）

こんた　りょうへい／アジア経済研究所　ラテンアメリカ研究グループ

2001年入所。専門はブラジルをはじめとするラテンアメリカの社会問題や地域研究。

写真14　VLTの試験走行が行われていたリオ市中心街にある市立劇場前広場のリオ・ブランコ大通り。VLT完成後、同大通りはVLTとバスだけが通行可能となるが、同広場付近はVLTと歩道のみになる予定

な路面電車（ライトレール）の敷設工事や試験走行が行われており、完成後はリオの港湾地区と中心街を走行する公共交通機関として利用されることになっている。さらに、港湾地区には新副都心として高層のビジネス・ビルがいくつか建設中または予定されていた。しかし、筆者が現地で見聞きしたところでは、そのアクセスや周辺ファシリティの不便さから、建設の中止やビルへの入居中止が出ているとのことだった。

筆者が訪問したリオでは五輪を契機に、その関連施設だけでなく都市再開発が進められていた。ただしその一方、「ファヴェーラ」と呼ばれるスラム街をめぐる貧困や治安の問題も根強く残っている。

リオではファヴェーラにUPPという常駐の治安維持部隊を設置するとともに、北部と中心部の二カ所のファヴェーラにロープウェイが二〇一一年と二〇一四年に建設され、ファヴェーラ内の治安回復や住民の日常生活の利便性向上が試みられている。しかし筆者が訪問した際、原因は不明だが中心部のロープウェイは長い間運行中止で、北部の方は久しぶりに運転を再開したところであり、立ち入り難いファヴェーラという問題の深刻さを端的に物語っていた。

ブラジルでは最近の景気悪化などにより、今世紀に入り改善傾向にあった格差が二〇一五年は拡大したとされる。五輪を機にリオを訪れる人々は、競技や新たな施設だけでなく、貧困や治安の問題をはじめ、ブラジルが直面する困難な現実に遭遇することがあるかもしれない。

写真15　近年拡大しているリオ市北部に位置するファヴェーラ「コンプレクソ・ド・アレマン」に設置されたロープウェイから。巨大なファヴェーラには6つもの駅がある